

令和6年度 策定 行動計画書（高齢者・障がい者） 高平台校区社会福祉協議会						
基本理念	基本目標	分野	福祉課題	福祉課題の実情	具体的な取り組み	校区社協としての取り組み
支えあい笑顔が花咲くたかひらだい	みんな一緒に活きがいづくる思いやり	高齢者、障がい児・者	高齢者の孤立防止と社会参加	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事を開催するにも世話をする人が減っている ・高齢者が気軽に集える場所がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体（日頃の挨拶、民生・児童委員の定期訪問等）で見守りについて意識の向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・要配慮者への回覧版を利用した声掛け推進 ・「たかひらだいみまもりたい」の有効活用
					<ul style="list-style-type: none"> ・自治会役員と民生・児童委員で要配慮者の情報を共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ・見守りを目的とした自治会役員と民生・児童委員の情報交換会の開催
					<ul style="list-style-type: none"> ・町内組の活用で意識の活用を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の清掃奉仕や隣保組挨拶運動をとおした見守りの推進
					<ul style="list-style-type: none"> ・「福祉協力員」校区在住の専門職、技術職、趣味特技（保健師・看護師・調理師・庭師・囲碁将棋有段者等）の方で協力いただける方を募集する 	<ul style="list-style-type: none"> ・協力者及び専門職などを自治会と協力し人材の発掘登録「たかひらだい人財バンク」の検討
					<ul style="list-style-type: none"> ・各町内集会、研修会後に茶話会を開催する事で参加者が相談しやすい場を提供する 	<ul style="list-style-type: none"> ・各町内集会、研修会などの開催後に茶話会を実施各町内でおしゃべり会の推進
					<ul style="list-style-type: none"> ・既存の行事を充実させるとともに新行事を企画し情報を発信する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいサロン・つどい、各老人クラブ、サークルなどの取り組みについて日時や活動状況を周知 ・一人暮らし高齢者を対象としたお楽しみ会の開催 ・健康体操、健康マージャン、囲碁将棋等趣味の会などを知ってもらい呼びかける
					<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達とのふれあいの場作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・「子ども食堂（世代交流食堂）」計画検討 ・高齢者が得意とすることを披露する場やボランティアに参加する機会を作る
					<ul style="list-style-type: none"> ・空地、空家の有効活用（市空き家など対策計画） 	<ul style="list-style-type: none"> 持主、行政、相談など調査から始める
					<ul style="list-style-type: none"> ・福祉有償運送制度（利用に条件あり）の活用 ・現在7カ所にささえりあ独自の運動強化サロン「かたんなっせ」を活用し各町内におしゃべりサロンや体操教室の立上を目指していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報、連携
			高齢者の体力維持と健康問題	<ul style="list-style-type: none"> ・外出機会が減少し体力維持が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公民館、老人福祉センター等既存施設を利用したふれあい・いきいきサロンの充実（魅力ある体制と楽しいプログラム作りを図る） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい・いきいきサロンリーダー研修会の開催検討 ・高齢者が得意とすることを披露する場やボランティアに参加する機会を作る（例・高平げんきクラブ・歩こう会・ニューススポーツを楽しむ会・野菜花づくりの会・男性料理教室・囲碁将棋教室等）の立ち上げ検討
					<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと交流できるイベントを企画する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふくし祭り開催（各種団体、コミセン・公民館教室及び企業と連携し既存行事と合同開催）検討
					<ul style="list-style-type: none"> ・下校時の声掛けと健康維持を目的に地域全体であいさつ運動を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・「たかひらだいみまもりたい」と共同のお散歩パトロールの参加者募集
					<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと一緒に夏休みのラジオ体操へ参加する 	<ul style="list-style-type: none"> ・校区全体で夏休みのラジオ体操参加を推進
				<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が歩いて行ける範囲に集える場所がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事・ふれあい・いきいきサロンへの参加呼び掛け 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事やふれあい・いきいきサロン活動について社協だよりを活用した情報提供 ・魅力あるイベントの開催参加促進 ・日頃からの挨拶や声掛けを意識的に行い地域のイベントへの参加を促す

令和6年度 策定 行動計画書（高齢者・障がい者） 高平台校区社会福祉協議会						
基本理念	基本目標	分野	福祉課題	福祉課題の実情	具体的な取り組み	校区社協としての取り組み
支えあい 笑顔が咲く たかひらだい	みんな一緒に 生きがいつくる 思いやり	高齢者、障がい児・者	認知症高齢者への理解	・個人情報の問題があり認知症高齢者に関する情報把握が難しい	・地域包括支援センター清水たかひらと共有できる関係づくり	・介護保険制度についての学習会を開催（関係機関との交流を含む）
					・見守り対象者を把握し集いの場への参加促進を図り自治会と連携し地域全体でみまもる体制を目指す	・要援護者登録者名簿の活用（配布先・自治会長、民生・児童委員、社協会長、消防分団長）（共有・必要な範囲の関係者）
				・認知症に対する知識が乏しい	・認知症について勉強会を開催し知識を向上させる	・認知症サポーター（各分野あり）養成講座を各町内で推進する ・包括支援センターが企画実施する講座を受講する
					・見守りが必要だが声掛けが難しい人への対応が難しい	・支援が必要な世帯は地域包括支援センターと連携、情報提供 ・認知症声掛け疑似訓練の実施
					・認知症カフェ「おれんじカフェたかひらだい」を活用し、認知症の方や家族が気軽に相談できる場を増やしていく	・高平台ふくしの会「オレンジカフェ高平台」活動紹介広報
			交通（移動）手段や買い物	・免許証返納後の移動手段の確保が難しい	・免許返納後の生活の利便性の向上を目指す	・校区内乗り合いデマンドタクシーについての導入検討 ・移動販売業者調査相談 ・買い物サービス等の広報
				・危険な運転をしている高齢者を見かける	・免許証返納について認識を深める	・会議、交流会、社協たよりなどでの広報 ・交通安全講習の開催を計画
			障がい児・者に対する理解	・詐欺などの犯罪被害が増加している	・防犯について最新の手口を学ぶと共に住民への意識喚起を行う	・自治協議会、関係機関と連携し各町内で防犯についての出前講座を推進
				・個人情報の問題があり情報把握が難しい	・相談支援事業所など関係機関と情報共有を行う ・見守り対象者を把握し家族の理解を深め集いの場への参加促進を図り自治会と連携し地域全体でみまもる体制を目指す	・情報共有を図る ・要援護者登録者名簿の活用（配布先・自治会長、民生・児童委員、社協会長、消防分団長）（共有・必要な範囲の関係者）
				・障がい者に対する知識が乏しく、接し方がわからない	・障がい者についての勉強会を開催し知識を向上させる ・障がい者の訓練施設などの見学や勉強会を企画する	・障がい者相談支援センターと連携した学習会の開催 ・障がい者サポーターの研修会の開催 ・障がい者の人権についての講座を開催

令和6年度 策定 行動計画書（子ども・子育て）高平台校区社会福祉協議会						
基本理念	基本目標	分野	福祉課題	福祉課題の実情	具体的な取り組み	校区社協としての取り組み
支えあい 笑顔が花咲く たかひらだい	ひとりじゃない 笑顔で育てる 宝の若葉	子ども・子育て	子ども、子育て世帯の孤立	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の問題があり子ども、子育て世帯に関する情報把握が難しい ・子どもの遊び場がない（少ない） ・ひとり親家庭の情報把握が難しい ・共働き世帯やひとり親世帯において放課後の児童の居場所がない 	・未就学児の子育て世代の交流を図り悩み事を共有できる場を提供する	・子育て支援センター、高平台げんきっ子ひろばの活用
					・子育て支援センターが行う活動や民間がが開催している子ども食堂などを周知する	・校区社協たよりなどで広報。今後ホームページ作成を検討する。
					・PTA、学校との連携を図る	・PTA、学校との意見交換の実施 ・児童育成クラブの活用
					・イベントごとに子育てについて相談できるコーナーを設けるなど自治会や保護者他各種団体が応援する	・校区イベント開催時に関係機関と連携し子育て相談コーナーを設置し校区全体や親同士の交流をふかめていく ・乳児名簿の活用
					・子どもたちの安全な遊び場を確保すると共に地域と繋がる場を提供するなど子育て世代とシニア世代との交流のための共同活動を模索する	・地域住民と子ども達で取り組む花公園の整備、夏休みのラジオ体操等を楽しく出来るよう計画する ・伝承行事（盆おどり大会、運動会、どんどや等）へ参加しやすい環境を整える ・高齢者とのとの交流（伝承遊び、囲碁・将棋、ゲーム等）を図る
			子どもの人権 （虐待・引きこもり・いじめ・不登校）	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待・引きこもり・いじめ不登校など外部から見つけることが難しい ・学校からの情報提供も少ないため情報把握が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携し校区の見守り体制を強化する ・保育園・幼稚園・小学校・中学校と地域の代表者で近況や各々の課題について共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに関する相談窓口の情報収集 ・「たかひらだいみまもりたい」「登下校時交通指導」「防災パトロール」「情報交換会」活動の中で確認
					<ul style="list-style-type: none"> ・児童相談所虐待対応ダイヤル「1 8 9」、いじめ等24時間子供SOSダイヤル「0120-0-78310」、子どもの人権110番「0120-007-110」、親子のためのの相談LINE「QRコード」を周知する 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに関する相談窓口の広報などによる情報提供

令和6年度 策定 行動計画書（災害・防災・暮らし）高平台校区社会福祉協議会						
基本理念	基本目標	分野	福祉課題	福祉課題の実情	具体的な取り組み	校区社協としての取り組み
支えあい笑顔が花咲く たかひらだい	みんなで備える あしたの安心	災害・防災	平常時における災害の備えと体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭内の備蓄食料の確保ができていない ・避難経路における危険個所が把握できていない ・避難訓練ができておらず大きな災害が起きた時に不安がある 	・災害時における備蓄食料必要性と啓発活動を行う	・自治協たより等を活用した備蓄食料についての啓発やローリングストック等の情報提供
					・校区行事などで防災備品の見本展示、販売、非常食の試食	・各実行委員会などで検討願う
					・自主防災クラブ、地域ハザードマップを整備確認する	・各町内に依頼➡14自治会自主防災クラブ(5町内なし) 地域ハザードマップ（11町内なし）整備し各戸に周知願う
					・一般住民を対象とした校区防災訓練を実施する	・防災連絡会（避難所運営委員会）に依頼➡❶校区の年1回の防災訓練に住民の参加を町内会に依頼し、また各町内独自の自主防災クラブの避難訓練を計画 ❷避難経路を実際に歩いて確認を行う
					・自治会連合会、自治協議会と連携し地域の意識向上を図る	・校区防災連絡会と連携し避難場所、危険個所の情報発信
					・災害時情報収集方法の告知	・防災連絡会（避難所運営委員会）に依頼➡SNS（くまもとアプリ等）、テレビ、ラジオでの情報収集の広報
	❸ お互いさまで思いやり地域のなかまと	暮らし	災害時における避難	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅避難をする場合に情報や支援物資が届くか不安 ・隣近所の助け合いが重要だと思いが何をしたいかわからない 	・各家庭での備蓄の重要性の告知啓発活動	・防災連絡会（避難所運営委員会）依頼➡災害時の指定避難所、地域一時避難所の広報、在宅避難者の支援物資受取手段の告知
					・地区ごとに要配慮者についての情報を共有する	・要配慮者について自治会役員と民生委員の情報共有会の開催 ・災害時要援護者登録者名簿の活用を計画する
					・要配慮者の把握、組単位での支援できる人を決めておく	・災害時要援護者避難支援制度の活用 ・災害時要援護者避難支援制度個別避難支援プラン作成（町内役員、自主防災クラブ、民生・児童委員）
					・ゴミ出しルールの再度情報提供	・ゴミの出し方について町内毎にて機会あるごとにお知らせする
					・ゴミ出し困難者への情報提供	・高齢者、障がい者へ「ふれあい収集」を周知する
					・自治会で所有者へ連絡及び対応の確認をとるよう働きかけを行う。（熊本市空き家対策課相談） ・専門機関から空家についての最新情報を収集する	・空家所有者の情報の共有 ・空家について講座開催計画
			環境、治安に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ出しルールが守られていない ・空家、空地の有効活用 ・詐欺などの犯罪被害が増加している 	・日頃の見守りのなかで北合志警察署のチラシを配布する等の注意喚起を行う	・関係機関と連携し防犯について啓発
					<ul style="list-style-type: none"> ・各種団体役員、民生・児童委員の負担を軽減し、誰でも役員になれる体制を整える ・校区内の自治会連合会、自治協議会が人材情報発信をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代（例 PTA役員、子育て卒業後）、退職者、町内役員経験者等の人材（数年先考えた校区人材バンク登録）を求めるなど自治協議会内地域活動への参加を促す ・行事見直し、スリム化、引継ぎの充実、各町内 輪番制の検討などの負担軽減を図る ・地域行事への参加を促しコミュニケーションを通して人材発掘を行う
					<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな地域団体があるがそれぞれの活動内容がわからない 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種団体行事案内回覧やまちづくりセンターの公式LINEなどで行事や活動を発信・年1回14町内回覧の自治協たよりにて各種構成団体を紹介する ・各種団体がそれぞれ広報誌を発行し広報する
					・若い世代に地域行事や各種団体の活動内容を知ってもらう	・PTAと連携しSNSを活用してボランティア募集等若い世代へ情報を発信